

# 山行報告



## ■六甲山 須磨アルプス

### 海に近い山の縦走を楽しむ

- 日 程：7月15日(土)
- 参加者：La 澤田(律) SLa 田中(美) 乙坂 木下 貝塚(陽) 坂田 笹木  
Lb 三木(悦) SLb 苦瓜 砂川(美) 土井 西川 平石 矢根

- 行動記録：山電須磨浦公園駅 9:00 発～展望台(9:25 着)9:30 発～旗振茶屋 9:50～高倉台団地(10:30 着)10:45 発～梅尾山(11:15 着)11:45 発～横尾山(12:05 着)12:10 発～東山(12:45 着)13:00 発～板宿八幡分岐付近(13:20 着)13:25 発～板宿神社(13:40 着)13:50 発～板宿商店街(14:10 着)

## ◆◆須磨アルプス、印象に残ったところは

## 笹木

昨年からの私の山行は殆ど雨だったが、今回は梅雨明けを前にしてカラカラの晴天！「いい景色が見えますねえ、楽しみ～♪」と燥ぐと、「暑くて暑くて、景色を見るどころじゃないわよー」と返ってきた。「そうかー、熱中症に注意しなくちゃ～」と思いつつ、初めて歩くコースで、どんな道歩くのか、どんな景色に出会えるのかワクワクして出発した。

さて、感想文。印象に残ったところは、

<馬の背>

「ここにも馬の背があるんですか？」この時点で、高御位山の馬の背を思い浮かべていた私は、横尾山を抜けて目の前に広がった景色に「わあー」と声を上げた。ここまでの樹林帯道とはうって変わって一気に視野が開け、洞窟が壊れたような景観の白い大きな岩山が目の前に現れた。「笹木さん初めて？ゆっくり写真撮っていいですよー」と言ってもらったけど、この迫力は写真には収められなかった。両脇が削られて細くなった岩尾根を歩き、乾いた岩肌を登っていく。草木が一本もない炎天下だったけれどスリル満点で面白かった。

あとからネットで調べると、須磨アルプスは、岩稜地帯の馬の背があるところからアルプスと呼ばれている、とあった。

<魔の階段>

須磨浦公園から旗振茶屋、鉄拐山へと登って、高倉台団地へ一気に下り始めたとき、下りた分また登るんだ、と覚悟はしていたものの、次の梅尾山への道は階段オンリーだった。数段登っては息をついて、「あとどれくらい？」その都度見上げて見えるのは階段だけ。暑い～！しんどい～！！修行の精神でひたすら登った。景色は全く見えていない。ざっと525段だったとか。



## <絶景>

須磨アルプスというだけに海岸線の景色を期待したけれど、展望台や見晴らしの良い山頂などでゆっくり楽しむことが出来ず物足りなかった。青い海と白い街並みは何処から見ても絵になるが、旗振茶屋あたりで振り返り見た明石海峡大橋と海が一番美しく印象に残っている。

全行程の殆どがウバメガシなどの木に囲まれて木陰が多く、時折吹く風も心地よく、登山道はよく整備されていて歩きやすかった。

## <口に入れたもの>

梅入りおにぎり一個、ウィンナー3ヶ、卵焼き2切れ、天然水1本、お茶1本、アクエリアス1本、以下頂いたもの（キュウリの浅漬け1本、ららクラッシュ2ヶ、一口カステラ1ヶ、塩キャラメル1ヶ、塩レモン飴1ヶ、） 須磨の海風。



- 日 程：7月12日(水)～16日(日)
- 参加者：21名（氏名は活動報告参照）

## ◆◆兵庫から岡山へ「労山旗」を繋ぐ

## 三木(悦)

国民平和一大行進の「労山行進旗」が7月7日に大阪労山から兵庫労山に引き継がれ、16日には岡山労山にバトンタッチされた。私達の播磨地区は12日～16日の行進となり、期間中は毎日“この夏最高の暑さとなるでしょう”と気温が更新される厳しい中での行進でした。



毎年兵庫を通し行進されている神戸の会の方に労山会員の行進状況を尋ねたら、播磨地区に入ったら行進者が少なくなると言われた。暑い時期の行進なので敬遠されるのもあるが、関心が薄いのも現状のようである。

国民平和一大行進は核兵器廃絶を掲げ文字通り全国を歩く行進ですが、難しく考えず、平和を願い「平和でなければ山に登れない」を「歩く」という事で意

思表示ができるので参加している。

今年は兵庫県最終日の赤穂～寒河コースに参加したので「労山行進旗」を岡山労山へ引き継ぐお手伝いをさせていただいた。

来年も行進で会いましょう！と神戸の会の方々と約束をして岡山・寒河駅を後にしました。

最後になりますが毎年暑い中、冷たい飲み物、食べ物で行進団を受け入れてくれる各地域の方々に感謝致します。



## ■高山植物の宝庫・旭岳(ゆっくりリズム山行)

- 日 程：7月21日(金)～24日(月)
- 参加者：CL 渡邊(俊) L 澤田(律) SL 西口 澤田(卓) 荘所 田羅間 廣岡 舛賀 村上

### ● 行動記録：

- (22日) ホテルベアモンテ 8:25 発～ロープウェイ姿見駅 8:30 発(8分間搭乗)～姿見山頂駅(ストレッチ)9:10 発～すり鉢池 9:35～鏡池 9:40～裾合平分岐(11:55 着・昼食)12:15 発～引返場所(12:45 着)～裾合平分岐 13:15 発～高山植物撮影地点 13:35～休憩(14:00 着)14:05 発～休憩(14:45 着)14:50 発～夫婦池 15:30～第4展望台 15:35～姿見の池(15:55 着)16:00 発～ロープウェイ姿見山頂駅(16:20 着)16:30 発搭乗～山麓駅(16:48 着)～ストレッチ後ビジターセンター見学(16:55 着)～17:10 発～ホテルベアモンテ(17:15 着)泊
- (23日) ホテルベアモンテ 8:00 発～ロープウェイ姿見駅 8:15 発(8分搭乗)～姿見山頂駅(ストレッチ)8:40 発～姿見の池(9:10 着)9:20 発～6合目(1800m)9:45～休憩(9:55 着)10:00 発～7合目(1930m)10:10～9合目(2100m)11:00～にせ金庫岩(11:05 着)11:15 発～旭岳山頂(11:25 着)11:50 発～にせ金庫岩(12:00 着)12:10 発～8合目(2060m・12:35 着)12:45 発～7合目(13:05 着)13:15 発～休憩(13:50 着)14:00 発姿見の池(14:16 着)14:20 発～旭岳の大崩落 14:25～ロープウェイ姿見山頂駅(14:50 着)～山麓駅(14:58 着)～ホテルベアモンテ(15:05 着)

### ◆◆旭岳の裾合平を散策

### 田羅間

8/21 関西空港に集合後、旭川空港へ。ホテルに向かうタクシーの窓の外には雄大な北海道の景色が広がる。

8/22 小雨の中ホテルを出て、ロープウェイに乗る。姿見山頂駅では雨がどしゃ降り、少し待つと止んできた。30分遅れて出発。雨模様なので明日とコースを変更し裾合平に向かう。

雪渓を5回もわたり裾合平で昼食を摂り、渡邊、澤田(卓)さんと分かれて7人で中岳温泉を目指して出発。木道を登り平原に出る。左右にチングルマが咲き乱れるすばらしいお花畑。途中、中学生のグループが、土が流れるのを防ぐ作業をしていた。



時間的に中岳温泉まで行くのは無理なので引き返す。待っていた2人と合流し来た道に戻る。

16時頃、姿見の池につく。晴れてきて風も止み、旭岳や5～6ヶ所から立ち上る噴煙が池面に映り、みごとな眺めを見ることができた。そこから歩くこと20分で姿見山頂駅につく。

すぐロープウェイに乗ることができ、山麓駅に降りてストレッチをする。

雨のため出発が遅れ、中岳温泉まではたどりつけなかったが、時おりガスの晴れ間に幾本もの雪渓の残る山や谷、いちめん花咲く平原の眺めは素晴らしいものであった。



## ◆◆旭岳登山と中腹の裾合平(お花畑)散策に参加して

廣岡

7月23日、お天気情報を気にしながら朝、目覚めるとバッチリ。情報を見る限りいずれも登山指数AAA。昨日、お天気の様子をみて、渡邊リーダーの判断で裾合平方面と旭岳の行程を変更したのが、当たり～！！

ホテルを8：00出発。ロープウェイに搭乗。大雪の原生林を眺め、熊を探し、又その雄大な景色や緑の美しさを、堪能した8分間でした。

標高1600mにある姿見山頂駅につくと、やはり体感はひんやり。ストレッチを済ませ、旭岳山頂にむけ出発。美しくなびく「ちんぐるまの綿毛」の群生や「コマクサ」も見ることが出来ました。その他いろいろな高山植物を観ながら緩やかな木道を通り姿見池(1670m)では山からゴォーと音を立ててガスが噴き出る激しさと雄大さ、それらが静かな姿見池に映る美しさに目を奪われました。

6合目からは徐々に碎石がゴロゴロ。大きな石や岩もあり気の抜けない足元になりました。尾根歩きですが道幅は結構広くすれ違う時のリスクはなかったけれど下へ石を落とさないように、滑らないように歩くのは疲れるものです。

左右の景色が違うのでリーダーの澤田さんがタイミングよく休息を取って下さったその時に、



首を左右に動かし違う景色を見ました。不思議な形の金庫岩(どうしてこんな名前が付いたのかな?)。花も少なくなって「タデ」の花が低く咲いていました。8合目から急坂になり滑り易く9合目からは25分で山頂につきました。バンザイ＼(´o`)／

三角点にタッチしたり、写真を撮ったり、それぞれのレーションで昼食をしたりです。

天気情報がAAAでもすっきりと、全体が見える訳ではなく、一瞬霧が晴れて全貌が眺

められたかなと思う間もなく雲にかくれ、中々大雪山系の山は全体を現わさず、神秘的に包まれているなと思いました。

山を下りる途中後ろを振り返ると旭岳山頂は黒い雲に覆われて雨の気配でした。天候の変化が早いです。私自身、失敗あり、注意も受け、その他反省もありでしたが、大变得るところの多い山行でした。ホテルの場所、食事、源泉かけ流しの温泉、そして個性溢れる素敵なメンバー。

これからもよろしく願いいたします。皆様、ご支援を有難うございました。



### ■高御位山縦走(新豆崎登山口から歩く)

- 日 程：7月22日(土)
- 参加者：L森本 SL前川(克) 関山 松本

- 行動記録：JR曾根駅8:50発～新豆崎登山口(9:00着)～大平山(9:35着)9:40発～地徳山(10:00着)10:05発～鷹巣山(11:30着)11:35発～馬の背分岐(11:50着)12:30発～大鳥居(13:00着)

## ◆◆炎暑の高御位山縦走

松本

高御位山縦走は入会后初めてで、また真夏の事でもあり体力的に大丈夫だろうか？と一抹の不安もあったが、一度は試練にチャレンジと思い今回の縦走に申し込み、参加した。

当日は太陽がジリジリと照り付けて朝から暑い。天気予報では曇りに向かうとの事。梅雨明け直後の連日の猛暑であり熱中症対策として冷却用も兼ねてペットボトルの水を凍らせて20分を持参したが少なかつたらうか？自分ではザックはずっしりと重く感じたのだが…。

参加メンバー4名でJR曾根駅8:45集合。入念なストレッチの後、新豆崎登山口に向かう。国道2号線の歩道橋を渡り新しい道標に従って登山口から高御位山を目指す。登り口は木陰が多く涼しく感じた。

枯れ枝でクモの巣を取りながらの森本リーダーを先頭に緩やかな登山道を進んでいく。経塚山古墳、大平山、地徳山へと木陰での休憩を取り水分補給をしながら歩く。木陰での休憩は風が通ることもあり清々しい。一方、登山道では風が通る場所もあるが出発時から変わらず容赦ない夏の太陽がジリジリ眩しい。アップダウンの登山道を歩くにつれ道のりはまだまだ長いのだが徐々に登りでの足の上がり鈍くなり、だるくなって来るのを感じる。

しばらく歩くと逆方向ながら例会の清掃登山西コースで見慣れている鹿島神社登山口近くまで来てホッとしたが予定よりもここまでで30分程遅れている状況。これから登る百聞岩を見上げて、日差しも益々厳しく何も遮るものがないハードな岩場を疲れた足でノロノロながら懸命に登る。息を切らして登り終えともう膝がガクガクである。ここから鷹巣山までのアップダウンの登山道が疲れた体を更にいじめる。特に鷹巣山への登りは岩場であり上げる足の1歩がきつい。ゆっくりではあったが漸く出発から3時間。お昼12時前に馬の背分岐に到着。

ここで森本リーダーの英断でこの暑さでは続行は困難であり馬の背から馬の背登山口に下山するという事になった。馬の背分岐の木陰のある岩場で昼食を摂り腹ごしらえ。ここは風も通り眺めも良く絶好の休憩場所である。西に目をやればこれまで歩いてきた山の登山道がくっきりと近くに見える。東を見ればこれから向かう予定だった高御位山山頂付近がぼんやり遠くに見える。広がる正面の海も眺めながら40分程ゆっくりと休憩し息を吹き返して馬の背登山口を目指して下山する。下りという事もあるのか、十分休憩した為か、嘘のようにスムーズに足が動く。とは言いながら転ばない様に慎重に歩みを進める。全員無事に下山し、森本リーダーから指導も受けながらストレッチを行い、鹿島神社参道の店で軽く反省会を行い締めくくった。

今回の高御位山縦走コースは、風の通る木陰も多く休憩では優しかったという一方で、岩場も含めた登山道のアップダウンが厳しくトレーニングにもふさわしいのだと実感した。炎暑の中、休憩しながらアップダウンの多い登山道コースを歩き、予定の目的地から途中下山へと変更になったが全員無事にトラブルも無く下山が出来て良かった。蛇足ながら凍らせたペットボトルは500mlが1本残ったので持ち帰った。暑さには勝てなかったがこの暑さが一段落したときには再チャレンジしてみたい。

最後に森本リーダー、参加の皆様、炎暑の中大変お疲れ様でした、お世話になり有難うございました。





## ■上高地テント泊 徳澤園キャンプ場をベースに日帰り登山

- 日 程：7月26日(水)～29日(土)
- 参加者：L 藤本 SL 田中(重) 田中(由) 前川(克) 山本(清)

### ● 行動記録：

- (27日) 上高地バスターミナル(5:35着)6:35発～徳沢キャンプ場(9:10着)10:35発～嘉門次小屋(12:00着)12:45発～明神池(12:50着)12:55発～徳沢キャンプ場(14:00着)
- (28日) 徳沢キャンプ場6:30発～横尾山荘(7:25着)7:40発～蝶槍分岐(10:45着)～蝶槍(11:10着)11:35発～蝶槍分岐(11:50着)～蝶ヶ岳(12:45着)12:50発～長堀山(14:00着)14:05発～徳沢キャンプ場(16:30着)
- (29日) 徳沢キャンプ場9:00発～上高地バスターミナル(11:00着)15:40発～新大阪(21:40着)

## ◆◆上高地テント泊 徳澤キャンプ場から蝶ヶ岳日帰り登山 前川(克)

猛暑の我が家を脱出し、大阪駅夜10時半に出たバスが翌朝5時半に上高地バスターミナルに着く頃には雨になっていた。朝食をターミナルで済ませ、雨具を着け約6km先の徳澤園に向け出発。今回はテント泊で3泊分の食料を詰め込んだ重いザックを背負って平坦な道を歩き9時過ぎに徳澤園に到着。着いた頃は本降り、キャンプ場の喫茶で温かいコーヒーで体を温めて天候の回復を待つことにしたが、一向に回復せず雨の中テントを設営。

徳澤園はナイロンザイル事件をテーマに書いた井上靖の氷壁に登場する宿で、井上の定宿だった所。昭和初期まで牧場だった所で、春には一面に、二輪草が咲くフラットな原っぱで絶好のキャンプ場だ。

設営が終わった頃には小降りとなり、サブザックを担いで明神池まで戻り、嘉門次小屋で岩魚定食と岩魚1匹浸かった名物の骨酒を頂く。明神池を見て穂高神社で登山の無事を祈って、テントに戻る。



戻った頃には天気も回復し、雲がかかっているものの、向かいの明神岳や前穂の一部見えてきて上高地に来たことを実感した。ロッジには5人程度入れる風呂もあり、風呂で汗を流して夕食に入った。今回はバーナー3個持参し、湯で温める食品を中心に各自好きなものを持ち寄った。このキャンプ場は飲料水が確保でき、思い思いに各自持参した食品の話題をネタに楽しい食事が始まった。水も冷たくて美味しく、焼酎も進んだ。

翌朝は雨で、夜中にも大分降ったようだ。女性陣2人は山行申し込み後に足を痛められたよう

で、日帰り登山は不参加となり、男3人で雨具、食料、飲み物など最小限の荷物をサブザックに詰め込んで、小雨になるのを待って予定より少し遅れて6時半出発。



平坦な道を約1時間歩いて横尾山荘到着。山荘のすぐ横が蝶ヶ岳への登山口。横尾から尾根の分岐点まで平坦な箇所は殆どなく、梯子が所々にある急な登りを2.3kmで1000mひたすら登ることになる。ただ、登山道は整備されているので危険な箇所は無く、体力勝負だ。

樹林帯を約3時間半登り、尾根に辿り着く。辺りはハイマツばかりの森林限界。尾根に着いた頃は雨も上がり、天気は回復。尾根からは穂高連峰や槍ヶ岳が見える筈だが、残念ながらガスに隠れて時々一部を見せてくれる程度だった。蝶ヶ岳で昼食を取り、青空の元尾根伝いに北アルプスについて初めて味わえる至福のひと時を楽しみながら蝶ヶ岳山頂まで歩く。山頂付近は虫が多く、防虫スプレーで防備しても寄ってくる。



蝶ヶ岳山頂から少し下って妖精の池までは、最高のお花畑だ。クロユリの群落をはじめ、シナノキンバイ、イワカガミ、ハクサンシャクナゲ、トリカブト、ユウレイソウ、クガイソウ、ダイヤモンドソウ、クルマユリなどこれ程沢山の高山植物が同時に見られるのは圧巻であり、ここまで来た苦勞が一気に癒される気がした。

ここからは距離4km高低差1100mを4時間かけ徳澤まで殆ど眺望のない樹林帯をひたすら下ることとなる。雨でぬかるんだ箇所が何度かあったが、登山道はよく整備されている。

4時半に女性陣の待つキャンプ場に到着。約10時間の長い登山となり、本当に疲れた。女性陣はゆっくり横尾までの散策をし、横尾山荘で美味しいうどんを頂いて帰ってきたとのこと。全員でロッジの風呂に入り、缶ビールで至福のひと時。テントに帰って夕食の準備にかかる。

翌日の天気予報では午前曇りのもの午後から下り坂で翌朝も雨とのこと。奥又白池登山は断念し、朝からテントを撤収し、1日早く上高地15時40分発の高速バスで帰還することとなった。バスターミルのインフォメーションセンターでは、氷壁のモデルとなった石岡繁雄の生誕百周年記念展示会(「氷壁」を超えて)を開催していた。石岡が実弟の滑落原因究明の実証試験をおこなった装置や切れたザイルの模型などが展示してあり、ナイロンザイルの危険性を20年余り訴え続けザイル安全基準設定に貢献しただけでなく、穂高屏風岩初登頂他登山でも素晴らしい実績を残した石岡の生涯が詳しく紹介されていて興味深かった。石岡は「安全な登山の為に、冷静で謙虚な心と科学的な態度で、事前の万全な注意が必要」(展示会パンフ

レットより)と登山の安全学を生涯訴え続けたようで、登山は計画から下山するまで安全に対する意識を常に怠ってはいけないことを改めて実感させられる展示会だった。

今回私としては講習会以外では初めてのテント泊体験だったので、ザックも大きめの65ℓを新調したが、食料品が多かったのか特に分厚い衣類など要らないものを沢山持って行ったのか、ザックは満帆だった。今回はキャンプ場なので水の



確保には困らなかったのだが、これが縦走となると更に荷物も重くなり荷物を絞り込むことの重要性を実感した。食料をはじめ皆さんの色々な持参物は大変参考になり、今後役に立たい。

お世話になったリーダーをはじめ同行の皆さん、お陰様で楽しい山行となりました。ありがとうございました。

## ◆◆ショートコメント

田中(重)

期待した蝶槍から蝶ヶ岳の稜線での展望は余り良くなかった。  
時折ガスの合間に見える穂高の壁が印象的で次の夏山で挑む気の引き締まる思いでした。  
妖精の池周辺は、クロユリ群生や色々な花々に出会い感動のひとつでした。



## ■伊吹山(1377m)滋賀県 草原のお花畑を見に行こう

- 日 程：7月29日(土)
- 参加者：L 藤原 SL 澤田(律) 松本 矢根 山本(正一) 山本(正樹)

- 行動記録：伊吹登山口 10:15 発～一合目(10:45 着)10:56 発～二合目(11:18 着)11:25 発～三合目(12:05 着)12:30 発～五合目(12:52 着)13:00 発～七合目(13:45 着)13:50 発～伊吹山山頂(14:45 着)15:25 発～山頂バス停(15:45 着)

## ◆◆伊吹山 日帰り山行に参加して

松本

「伊吹山(1、377m) 滋賀県 草原のお花畑を見に行こう」に参加した。伊吹山に登るのは初めてで山行プランでは前泊での早朝登山も有る様だが今回は早朝出発する日帰り山行に参加する事にした。

参加者6名でJR加古川駅改札口前に6:25集合。ここから青春18切符を使って新快速に乗り米原駅で乗り換えて10分弱で近江長岡駅に到着。駅のバス停に行くと既に登山装備で20人位の人が並んで待っていた。路線バスに乗り雪国で見られる融雪装置の設置された道路を走ること15分程で伊吹山上野登山口へ到着。心配していた天候は良好で高く上ったお日様が顔を覗かせている。

ストレッチ、各自暑さ対策装備を済ませて標高220mの登山口から登り始める。山頂まで6、000mと書かれた歓迎の登山道案内標識が見送ってくれる。途中で早朝に登ったのだろうか、多くの下山する人達とすれ違う。「こんにちは」の声が元気よく出る。小岩がゴロゴロあり足場が悪いところも在ったが、太陽を遮って湿った森林地帯の登山道を登っていくと一気に視界が開け、1合目に到着。ベンチで小休憩し、さらに日差しの中をゆっくりと登っていく。振り返ると少し眺望が広がっている。1合目から少なくなった日陰を見つけ小休憩を取りながら3合目辺りにくるともう標高は720m程。この辺りから伊吹山の山容が明らかになり山頂付近には霧が掛かっているようだ。草原の鹿よけ柵の向こうにユウスゲが花をすぼめているの見える。ここまでも登山道近辺で色々な花々が咲いており写真を撮る。花の名前は詳しく無いので帰ったら調べてみようと思う。



ちょうど12時になり3合目で昼食を摂る。日の出前に朝ご飯を食べてから随分と時間が経っている…。

元気を付けて5合目までゆっくりと登っていくと、いつの間にか山頂を隠していた霧が晴れていて頂上付近がハッキリと綺麗に見える様になった。ここは標高



880mなのだが登山道の脇に自販機があるのには驚いた。

以前、誰からか聞いた通り水の不足はまず大丈夫なようだ。山頂まであと2.4kmの標識に元気を貰って頂上を目指して登って行く。見上げると、つづら折りの登山道には色鮮やかなウェアの登山者がところどころに見える。登ってくる冷たい風が心地良いが日陰は見当たらない。見下ろすと米原の街並み、また琵琶湖も見え素晴らしい眺望である。この山の南側は眺望を遮るものが無いので高度を上げながら迫力が随時増して来る様を感じる。また高度を上げる程に下から吹き上げてくる冷たい風が心地よい。標高1,000mを越える7合目、8合目からは岩場が多くなり急に登りがきつくなって来る。すれ違う下山する人達の「こんにちは」の声にかすれた声で応える。この辺りの登山道は狭く急峻なので下りは結構大変そうだ。ようやく頂上付近に登りつき更に進んで標高1,377mの伊吹山一等三角点に到着。ここで全員無事登頂の恒例の写真撮影を行う。山頂は風も冷たく随分と涼しく感じる。ちょうど山頂標識の上に大きさ1cm位のカメノコtentウがおり皆さん写真撮影に懸命。頂上付近をしばし散策の後120m程下のドライブウェイ駐車場へ向かう。下って行く道は石を埋めている様だが結構凸凹で上り下りする人も多くゆっくりと歩かないと危ない。バス乗り場に降りストレッチをしながら30分程待って夏季限定の定期登山バスに乗り込む。耳がジーンと鳴るのを感じながらドライブウェイを下って行き40分程で隣の岐阜県にある関ヶ原駅に到着。4時間以上掛かって登った伊吹山山頂であったが一気に麓まで降りたことになり何とも言えない複雑な気持ち。ここから関ヶ原駅から米原駅まで行き新快速に乗り換えて帰途についた。

現地での当日の天気予報は曇りで若干の雨も心配されたが絶好の天候に恵まれた山行となった。

日帰りでも1,000m超を一気に登れる近辺の山は少ない事もあるのか、世代を問わず多くの登山者が登る人気の山なんだなあと感じた。花は時期が早いのか遅いのかちょっと少な目の感じがしたが…。山は色々な楽しみ方がある。

リーダーの藤原様、参加の皆様 お疲れ様でした。有難うございました。



## ■六甲地獄谷 アルプ

- 日 程：7月29日(土)
- 参加者：L 竹内 SL 和田 尾越 河崎 佐々木 須増 福田

- 行動記録：阪急芦屋川駅 9:00 発～高座の滝(9:25 着)9:30 発～地獄谷(9:40 着)9:50 発～ピラーロック(10:40 着)10:50 発～荒地山(12:18 着)12:45 発～高座の滝(13:45 着)～阪急芦屋川駅(14:25 着)

## ◆◆芦屋地獄谷から荒地山へ

## 河崎

酷く暑い日だった。照りつけるような陽差しはないものの、行路の多くが風のない樹木の狭間ということもあって地面から沸き立つような蒸し蒸しとした熱感が、始終我々一行を苦しめていた。

冒頭、通い慣れた高座ノ滝からはじめて足を踏み入れる入渓点。じつはここが地獄谷だということを知ったのはのちのことである。このおどろおどろしい地獄谷と称する小さな渓谷は、比較的大きく物静かなバリエーションルートだ。重なり合った樹幹のすき間からの光源が、濡れた岩肌や水流のながれに反射して明るいが、天候が荒れるととたんにその名が示すとおり様相を一変するのやもしれぬ。

ほどよい水量の苔むした沢を遡上。沢床は心もとなく気を抜くと滑りそうになる箇所がいたるところで見受けられる。小滝や高低差のある岩だなをいくつか越え、ひとしきりの汗をかくと沢の冷気をふと心地よく感じる瞬間がある。しかし、瞬く間にそれは湿度の高い山の呼吸によってかき消されてしまうので、思わず水面の流れに飛び込んでしまいたい衝動に駆られる。

それでもこの沢にいるうちはまだよかった。ほどなく沢の遡上がおわり、いわゆるAケン（A懸垂岩）方面の支谷へはいると無情にも暑さは増した。傾斜のきつい登りが連続する。垣間見える山峡の眺望は少なく、蒸気を含んだ気体によって町は白く霞んで見えた。シゴトが忙しく日常的に運動する機会がないので久しぶりの山歩きはかなりの重労働だ。汗だくになりながら息せき切って健脚揃いの皆の後を追う。

やがてAケンを巻き、雨や風で浸食された花崗岩群の造形が堪能できる万物相を眺めながら岩の隘路を歩くが、疲労のため注意散漫していると崩れ落ちた花崗岩の砂粒によって思わず足元をすくわれかねぬ。下りならばなおのこと。実際何度か滑った。

キャスルウォールから大腿四頭筋がつかなくなりはじめた。乱れた生活と、何よりも年齢からくる肉体の凋落を感じずにはいられない。汗が吹き出し拭ったタオルも絞れば水分がしたたり落ちるほど。これで痩せることができればいいが、単に飲水したものがそのまま排泄されているだけに過ぎない。疲労困憊のなか本山行の最高地点「荒地山」を目指す。

岩尾根を登りしばらくすると、垂直の岩棚、通称「岩梯子」が眼前に屹立する。文字通り梯子を伝うように登れる岩場だが、極度の高所恐怖症の自分には登りながら足元を見る勇気はない。三点確保が基本なのに大腿部がつかいので半ば腕力で重い体をひきあげる格好だ。とはいえ世間で言われるほどの難所でもない。まもなく七右衛門嶺と呼ばれる重なり合った狭隘な岩の穴を通過する。ザックを担いでは通れないから身と荷を分別して通り抜ける。メンバーで協力し合う。山頂まではそう遠い距離ではない。

標高549メートル荒地山ピークに到達したときには、すっかり疲弊の海に浸かってしまった。メンバーのみんなは意気よく疲れた表情もみせず元気に食事をしているが、食欲のない自分はパンを少しかじっただけ。下山エネルギーのためにゼリーと水分を補給し眺望のまったくきかない山頂をあとにした。

下山路は高座谷ルートからロックガーデン経由でスタート地点の高座ノ滝を目指す。

道は緩慢な下りが主だが、途中、危険箇所にロープなど人工的な補助のない岩場の下りに遭遇することもある。わずかに張り出した岩場のステップ。そこに足をかけ、あるいは見た目以上に手がかりの少ないホールドに指先をあずけ、必死に自己確保しながら苦心して下るメンバーの険しい表情を垣間見ると、整備されつくしたツルギやヤリホを経験したとき以上の緊張感がほとばしる。先に下降したリーダーがそれぞれの動きを見上げながら足場を指定する。それに従って順次クライムダウン。斜度が高くとも登りは易く、下りは難しい。それでも危険箇所を何とかクリア。全員安堵の表情をうかべているように感じた。



まもなく、ロックガーデン基部に到達。一般登山道に合流すると、スタート地点の高座ノ滝はもうすぐそこである。そうしてメンバー全員無事にゴール。肩の力が抜け、ようやくホッと一息ついた。みな、額の汗をぬぐうことも忘れ、満面に笑みをうかべながら記念撮影したのが印象的であった。

山頂で感じた疲労感は、下山後のよく冷えた麦酒によって一気に解消された。とても充実した山行だった。労せず今回のルートを歩ききれたのは、リーダーの竹内さんはじめ、ご一緒くださった皆様方のおかげです。またの機会を楽しみにしています。

本当にありがとうございました。



## ■ 鳳凰三山 (南アルプスの眺望と高山植物を楽しむ)

- 日 程：7月29日(土)～31日(月)
- 参加者：L尾内 SL赤木 香川 木村 小山

### ● 行動記録：

(30日) 甲府駅(4:00着)4:35発ー夜叉神登山口(5:55着)6:30発～夜叉神峠(7:40着)7:50発  
～杖立峠(9:30着)9:35発～苺平(11:40着)12:00発～南御室小屋(12:35着)

(31日) 南御室小屋4:10発～薬師岳(6:00着)6:20発～観音岳(7:00着)7:10発～地藏岳(8:40  
着)9:30発～鳳凰小屋(10:00着)10:40発～燕頭山(12:25着)12:40発～御座石鉱泉  
(16:30着)16:35発ー白山温泉(17:10着)18:30発ー葦崎駅(20:00着)

## ◆◆ 鳳凰三山、こんなに大変で南アルプス入門の山？ 小山

大阪梅田20時10分発の夜行バスで山梨県の甲府駅を目指す。到着は4時。いよいよ、念願の鳳凰三山への一歩が始まる。昨年、夏山集中山行の参加を決めていたが、休暇が取れなくて、泣く泣く諦めた。今年は梅雨明け10日の一番天気の良い時期に合わせての山行だったのだが・・・

鳳凰三山は、標高2764mの地藏岳、2840mの観音岳、2780mの薬師岳の三峰で鳳凰三山と呼ばれている。地藏岳の頂上に2個の巨石が相抱くように突っ立っている。この巨石、きわめて印象的なオベリスク(自然が作り出した見事な石の柱のようになった地形のこと)で、甲府盆地からでも見えるそうだ。

甲府駅4時35分発のバスで夜叉神登山口へ。雨は上がったが、どんより曇った空は登山口の私達の士気を下げる。それでもストレッチをして、登山口を後にした。

展望のない、退屈な道が続く。唯一の救いは“ホタルブクロ”だ。ピンクの可愛い釣鐘形の花を見ると、沈んでいた気分も晴れてくる。



出発から1時間程で夜叉神峠についた。その先の夜叉神小屋の前に、本来ならば白峰三山が正面に眺められる展望地があったが、何も見えない。

ひたすら曇り空の下を歩く。夜行バスに続いての登山口へのバスで標高を一気に上げたせいか、軽い高山病になった。身体が怠いし、頭がガンガンする。足が重い。

2時間程で杖立峠、それから2時間で苺平。12時半に今日の宿『南御室小屋』へ到着した。疲れた～

2日目は4時過ぎに出発。まだ空に星がチラホラ・・・。今日はいい天気だと宿の主人が言っていたので、気分良く出発できた。

歩いていると東の空が次第に明るくなってきた。4時50分、雲海の中から見事な日の出。



しばらく行くと砂払岳山頂に着いた。その先に薬師岳小屋、ひと登りで薬師岳山頂、そこには昨日全く見られなかった眺望があった。

突然現れた富士山、そして白峰三山の北岳、間ノ岳、農鳥岳、圧巻だ。

今の時期を代表する高山植物“タカネビランジ”が濃いピンク、淡いピンクといろいろな姿を見せて楽しませてくれる。昨日1日の疲れが一気に吹き飛んだ。

薬師岳から40分程で鳳凰山の最高峰、観音岳に着いた。ここからは甲斐駒ヶ岳や最終目的地の地蔵岳(オベリスク)もよく見渡せた。

観音岳から地蔵岳まで、オベリスクを見ながら歩く。歩いて歩いてオベリスクは遠い。

1時間半程で賽ノ河原に着く。子授地蔵が並ぶ、こんな山の一角にお地蔵さん？不思議な光景だ。

オベリスクを見ると、人影が見えた。若い女性のような。それにつられて私達のチームも行けるとこまで行ってみた。行きはよいよい帰りは怖い・・・まさにあの歌の通りだ。

登った方がいいが、怖くてなかなか降りられない。それでもやつのことで下まで降りた。

鳳凰小屋までの下りは砂地でズルズル滑りながら降りる。小屋は朝の片付けが済んで、次の客を待つのにびりした時間帯だったせいか、小屋の主人が気さくに声をかけてくれた。今回は泊まらなかったが、次回は是非泊まってみたい。

鳳凰小屋から御座石方面へ向かう。この下りも登りたくないルートだ。厳しい展望の無い下りが延々と続く。16時半、タクシーの待つ御座石温泉へやっついた。

1日目は登り6時間、2日目はオベリスクに登る時間を含めて12時間かかりました。

鳳凰三山は本当にアプローチの長い山です。疲れで足が悲鳴を上げました。

一緒に鳳凰三山へ登って下さった皆様、お疲れ様でした。リーダー、素敵な山行を計画して下さいありがとうございました。



## ■北アルプス 裏銀座コース縦走

- 日 程：7月30日(日)～8月3日(木)
- 参加者：L 上田 SL 三木(悦) 大谷 河合 村上

### ● 行動記録：

(30日) JR大阪9:00 発-栃尾温泉(16:06 着・泊)

(31日) 栃尾温泉6:00 発-新穂高温泉(6:10 着)6:30 発~ワサビ平小屋(7:50 着)8:05 発~小池新道(8:30 着)~秩父沢出合(9:25 着)9:45 発~鏡平小屋(12:35 着)13:10 発~弓折乗越(14:20 着)14:30 発~双六小屋(15:55 着・泊)

(1日) 双六小屋5:00 発~三俣蓮華岳(7:35 着)7:45 発~三俣山荘(8:30 着)9:15 発~鷲羽岳(10: 着)11:05 発~ワリモ北分岐(12:00 着)~水晶小屋(13:00 着・泊)

(2日) 水晶小屋5:35 発~東沢乗越(6:20 着)6:30 発~ヘルメット着(7:35 着)7:45 発~真砂分岐(8:00 着)8:10 発~野口五郎岳(8:55 着)9:05 発~野口五郎小屋(9:25 着)9:55 発~三ツ岳西分岐(11:20 着)11:30 発~三ツ岳の肩(12:05 着)12:15 発~烏帽子小屋(13:35 着・泊)

(3日) 烏帽子小屋 6:05 発～三角点(7:05 着) 7:10 発～権太落し(8:40 着)～テント場(9:45 着)  
10:00 発～高瀬ダム(10:10 着)

## ◆◆7月31日 新穂高から暑い!長い!登りで双六小屋へ 大谷

新穂高温泉から蒲田川左俣沿いに、わさび平小屋を目指して林道を歩く。

しかし、とても暑い。途中煙があがっているように見えたのは、岩の奥から風が吹いて出てきている風穴だった。中崎橋まではところどころでこういう風が出ていて歩きやすかった。少し行くと笠新道分岐を経て、わさび平小屋に到着する。休憩を取って、トマト、きゅうり、りんごが水で冷やされていて、さっそくトマトをほおぼる。とても美味しい!

わさび平小屋を後にし、左俣林道に行くのだが、汗が滝のように流れていくら水分を補給しても、おっつかない状態だ!真夏の六甲山に登った時でも、こんなに汗が出た事がない。まして、アルプスの山に来てこんなことは初めてだ。

秩父沢出合頃より、ますます足が重くなり、やっとのことでシシウドが原に着いた。雪渓が残っていて少し涼しい。

ひと休みして、お弁当のおにぎりを食べる。その後、体が軽くなりしっかり歩けるようになった。(シヤリバテだったかな?) 1時間程して鏡池につくも、穂高が見えるところだがガスっていて見えない。鏡平山荘に行って、待望のかき氷を皆で食べる。

山腹を登って行くと、弓折乗越に出る。ここは双六岳と笠ヶ岳の分岐で、4・5年前に秩父平に行く時に通ったところだ。ここから稜線を歩いて行くと雪田が残っていて、花見平は花の楽園でこここに花畑が広がり、小さなアップダウンを繰り返しながら双六小屋に着いた。とてもしんどい1日でした。

## ◆◆8月1日 双六小屋から水晶小屋へ、曇り後雨そして快晴 河合

双六小屋を5時出発。お花や槍ヶ岳、笠ヶ岳の展望を楽しみながら、巻道を三俣蓮華岳に向かう。

頂上に立つと鷲羽岳が行く手にどっしり構える。登頂前に今日のロングウォークに備えて三俣山荘で腹ごしらえ、小屋弁当、みそ汁、コーヒーで体力を確保する。

だが嫌なことに雨が降り出し、急登の鷲羽岳を濡れながらあえぎ上る。

宿泊の予約を断られた水晶小屋のことが気になる。双六小屋で出会った登山者が、水晶小屋は増築



して広がっているのだから小屋に着いてから宿泊を頼めば良いと助言をもらう。野口五郎小屋まで歩くつもりで出発しているので時間的に問題はないが、雨の中水晶小屋から更に3時間の難所歩きは、明日にしたい思いがあった。

13時頃に水晶小屋につき受付を頼むと5人に4枚の寝具でした。どうも初回の予約を受け入れていない小屋事情を感じるが、登山者泣かせだ。部屋で寛いでいると雨は上がり陽がさし出した。外に出ると眼の前は槍ヶ岳、穂高、遠くに白馬、立山方面が雲海から姿を見せ“凄いパノラマ!”である。

この景色そのまま持って帰りたい。時間差で見られる展望に釘付けになった。

## ◆◆8月2日 水晶小屋から烏帽子小屋へと雄大な山稜歩き 三木(悦)

早朝、青空のもと「水晶小屋」を出発する。小屋から東沢乗越までは急な下り、その後野口五郎岳までゴロゴロした足場の連続となり慎重に丁寧に足を運んだ。緊張の中、野口五郎岳山頂にたどりつくと、大展望に緊張の糸がきれた。山頂から見える360度の景色は圧巻です。

「The北アルプス」の絶景が目の前に広がり縦走してきた醍醐味を実感した。裏銀座よりさらに厳しい読売新道の稜線や表銀座、ギザギザ稜線の穂高もはっきり見える。方々に見える山の名前をリーダーが教えてくれた。

野口五郎岳からはゆったりとした稜線歩きを“ルンルン”と楽しむはずだったが、疲れた身体と標高が高いこともあり足が重い！ゆっくりゆっくり進んでくれたのでパーティーの足並みは保てた。三ツ岳はピークを通らずの肩を抜けた。ゆったりとした砂礫斜面にはコマクサが点々と咲いている。ピンクの可愛い花が私達を癒やしてくれた。素晴らしい景色と色とりどりの高山植物に見惚れながら、3日目の宿「烏帽子小屋」について。縦走の楽しさと厳しさを十二分に体験した1日だった。



## ◆◆8月3日 烏帽子小屋から高瀬ダムへ下山

村上

朝焼けに峰々が赤く染まり縦走最後の今日は登山日和です。

イワギキョウが咲き乱れる烏帽子小屋(2520m)を後に、標高差1250mの北アルプス三大急登の一つと言われる長い下りです。雲海を下に見渡しながらブナ立て尾根の急坂を下り三角点2209m峰で一息。中ほどで霧の中を下る。登りの登山者が多い中で、裏銀座コースから表銀座コース燕岳を目指す若者三人と出会う。頼もしいかぎりだ。小鳥の囀りや、沢の音を聞きながらブナの木々の間を権太落しから登山口まで下ると河原にかかる丸木の橋を渡る。

不動沢に架かる長い吊橋は、ところどころ板が抜けていて現在修理中の橋を渡り、トンネルを抜けると高瀬ダム(1270m)に到着。

メンバーそれぞれ縦走が無事に終わった余韻に浸りながら、ゆったりと予約のタクシーを待ちました。



### ■「セカンドステップ終了山行」白馬岳・杓子岳・鑓ヶ岳

- 日 程：8月4日(金・夜行バス)～8月6日(日)
- 参加者：L 砂川(延) SL 西川 島谷 大野 乙坂 平井 矢根
- サポート：澤田(律) 和田

#### ● 行動記録：

(4日) 猿倉荘 8:40 発～白馬尻(10:00 着)10:20 発～大雪溪(10:30 着・アイゼン装着 10:40 発～村営頂上宿舎(16:30 着・泊)

(5日) 村営頂上宿舎 4:20 発～白馬岳頂上(5:00 着)5:30 発～村営頂上宿舎(6:30 着)7:00 発～鑓ヶ岳(11:00 着・弁当)11:20 発～鑓温泉小屋・天狗山荘分岐(11:30 着)11:40 発～鑓温泉小屋(15:10 着・泊)

(6日) 鑓温泉小屋 5:00 発～小日向(コル 8:40 通過)～猿倉荘(11:00 着)



## ◆◆25年ぶりの白馬岳山行(セカンドステップ講座終了山行) 西川

体力的にもう無理だと半ば諦めていたが、今回講座の終了山行に選ばれたので、参考になることを思い出そうとしたが白馬山荘でビールを注文したらコック帽を被った従業員がジョッキで持ってきて驚いた事くらいで何も参考にならなかった。

### <1日目> 猿倉荘～村営頂上宿舎

砂川会長をはじめ総勢9名を乗せた、梅田発21時50分発の高速バスは予定より14分早く長野駅前に着いた。迎いの13人乗りのマイクロバスに乗り込み、登山口のある猿倉荘に向かう。

車窓からのアルプスの稜線が美しく眺められ、いよいよ来たとの思いが強い。途中ニホンカモシカが我々を歓迎してくれたりして、約1時間30分で猿倉荘に着いた。白馬岳の入り口に相応しいヨーロッパ風の立派な建物である。

ストレッチの後、8時40分山荘のスタッフに見送られて出発。溪流の轟音を右手に聞きながら進む。前方に望む雪溪の斜度が尋常でない、これからが思いやられる。10時に白馬尻小屋に着く。ここでヘルメット、スパッツを装着し記念撮影した後、少し登ったところが大雪溪の取りつきではるか上まで続いていた。それはまるでスプーンカットされた鱗を持つ白い竜が天に昇るかのようである。

そこでアイゼンを装着し少し間隔をあげ左右の斜面からの落石に注意しながら登り始めた。初めは比較的登りやすかったが、中ほどから傾斜がきつくなり息も絶え絶え。その時頭に”アラスカ魂”が浮かんだ。”ゴーアラスカ、シュゴーゴーラッシュゴ”このフレーズを繰り返していた。その時右手前方で乾いた音がした。”落”の絶叫と鋭い笛の音。落石は何度かバウンドした後二つに割れ、一つが後続のパーティーの方に行くが方向がそれ、もう一つは途中で止まった。緊張の一瞬であった。

12時50分長かった大雪溪も終わり、斜面を蛇行する山道に入る。雪解けの水が流れ込み歩き辛さに拍車をかけるが、色とりどりの高山植物が心を和ませてくれる。このあたりが葱平か。緊急避難小屋を過ぎるとミヤマキンポウゲの群生が霧の中で幻想的であった。さらに急登が続く隊列が乱れる。村営頂上宿舎の屋根が見えてからもなかなかつかず、苦労の末16時27分やっと宿舎に到着。宿舎は個室で6畳の部屋に5人、食事はバイキング形式でまずまずのお味。その後7時半には就寝。

### <2日目> 村営頂上宿舎～白馬岳～杓子岳～槍ヶ岳～鑓温泉小屋

ご来光を見るため朝3時に起床、4時20分にはサブザックで出発、25分で白馬山荘に到着。ここからの風景はまだプルシャンブルーの中に沈んでいた。しばらく眺めた後白馬岳頂上へ。ご来光が山の端をピンクに染めると大パノラマショーの始まりだ。眼前に杓子、鑓の大きな山体その先には鹿島槍の双耳峰、その奥には遠目にもそれと分かる槍の穂先、さらにその左手奥には雲海に浮かぶ八ヶ岳連峰、その右奥には富士山がうっすらと見えている。視線を右に移すとブルーグレーに白い雪溪を纏った劔岳が別山、雄山を引き連れて聳えている。ご褒美を堪能した後下山、途中コマクサ発見、歓声上がる。

宿舎に戻り7時に出発する。右手に毛勝三山、劔岳、立山連峰を眺めながらの快適なスタート。杓子岳の巻き道を通り、だらだら長い登の後鑓ヶ岳に11時頃到着、振り返れば雪溪の白、ハイマツの緑、岩の赤茶の組み合わせが絶妙である。ここで食事を済ませ鑓温泉小屋への分岐点へ、そこからヘルメットを着用し下る。途中雪溪をトラバースしたり、鎖場があったり緊張する場面があったがチングルマの群生や、ハート形の雪溪に元気づけられて15時頃に鑓温泉小屋に到着。

早速露天風呂に入り汗を流す。設備が何もない素朴な温泉ではあるが、わざわざ入浴するためにだけ来る人もいるとかで効能は確かなものであろう。食事までにビールを飲んだり、栃木からのパーテ

イーの人と歓談したりして7時頃夕食、ハヤシライスを頂いて早々に就寝したが、2階のため数回梁で頭を打つこととなる。

### < 3日目 > 鍵温泉小屋～猿倉荘

5時、朝日が雲間から輝く頃、露天風呂の威勢の良いお兄さんに見送られ小屋を出発する。

3日目は楽勝のはずであったが、雪渓を4度トラバースしたり、崩沢、落石沢等名前からして恐ろしい石がゴロゴロの沢を渡ったり、しかも4つ目の雪渓から2時間以上ずーっと1800m台の高度で気持ちが疲れる。8時40分小日向のコルらしきところに出る。ガイドブックではここから猿倉荘まで約2時間とわかり、元気が出る。ここからピンクや白のシモツケ草や吾亦紅の花と、初日登った大雪渓の雄姿が目を楽しませてくれた。歩きにくい下りで最後に雨に降られたが11時やっと分岐に到着。その後しばらく歩いて猿倉荘に着き、今回の山行は無事終了。帰路はジャンボタクシーで糸魚川へ。駅前で魚定食を頂き、新幹線で金沢へ、そこからサンダーバードで京都へ、新快速に乗り換え自宅に無事帰宅することが出来た。泊りの山行から帰った時いつも感じることもある。それは生きる力が強くなった気がするのである。普段の生活では、あふれかえる情報・食料で生命力が弱っているが不便な山のサバイバル生活でそれが甦るのではないかと思う。有難いことである。

今回砂川会長、和田・澤田(律)サポーター、同行の皆様大変お世話になりました。御礼申し上げます。



## ■ 「初めての山歩き教室」 終了山行 白山三ノ峰

- 日 程：7月15日(土)～17日(月)
- 参 加 者：La 砂川(延) 尾内 黒本 高島  
Lb 山本(正一) 須増 安田 教室生5名

### ● 行動記録：

(15日) JR加古川駅北8:15 発－善防公民館(8:45 着)8:55 発－旧滝野庁舎9:25 発－中国・滝野社 I C(9:30 着)－若狭美浜 I C11:27 発－さかな街(11:35 着・昼食)12:35 発－敦賀 I C12:40 発－福井 I C13:30 発－大野市内スーパー(13:55 着)14:45 発－鳩ヶ谷温泉(15:25 着)15:35 発－小池キャンプ場(15:58 着)・テント設営・夕食の準備・就寝 21:00

(16日) 小池公園キャンプ場 6:00 発～登山口(6:25 着) 6:30 発～山腰屋敷跡 6:50～六本檜(8:05 着) 8:20 発～剣ヶ岩(9:25 着) 9:30 発～三ノ峰避難小屋(11:00 着) 11:15 発～三ノ峰(11:25 着) 11:30 発～三ノ峰避難小屋 12:15 発～剣ヶ岩(13:15 着) 13:25 発～六本檜(14:20 着) 14:30 発～山腰屋敷跡(15:25 着) 15:30 発～登山口(15:45 着)～小池公園キャンプ場(16:10 着)

(17日) パークホテル九頭竜 8:20 発～大野市パーキング(9:10 着) 12:20 発～福井 I C(12:55 着)～敦賀 I C(13:30 着)～さかな街(13:40 着) 14:15 発～若狭美浜 I C(14:30 着)～西紀サービスエリア(16:00 着) 16:15 発～滝野・社 I C(16:45 着)～旧滝野庁舎(16:50 着)～善防公民館(17:15 着)～J R加古川駅(17:45 着)

## ◆◆三ノ峰登山に参加して

## 安田

昨年の終了山行に参加した時は大変な雨で、途中下山を余儀なくされた。だから絶対に今年は晴れると信じて参加したが、結果的には、また雨だった…。でも、昨年と違うのは、ちゃんと頂上まで行けた事である。

今回は昨年の経験者ということで、食料の買い出しや調理器具の準備を去年組3人で任されることになった。準備は万端と思ったところが、色々ハプニングはあるもので、持って来ているはずの物が無かったり、去年はこんな風にしてはいたはず、などと思っていたら違っていたりと、てんやわんやであった。でも、美味しい夕食会になり楽しかった。

昨年はテントでは、殆んど寝ていなかったが、今回は眠れる。それだけで、何か安心できた。

朝食が済み、荷物を持って出発が6時。雨が降らないのは、こんなにいいものかと感じる。

昨年ここで引き返した「六本檜」で、一息つく。でも、ここからが大変であった。急勾配を、ドンドン登っていく。高山植物が沢山、目に付くのが、とても心を和ませてくれた。さすが白山系の山である。三ノ峰までお花畑が、延々と続いて素晴らしかった。空は殆んど雨状態であったので、遠望は全くダメであったが、このお花畑が見られたのは感動であった。

しかし、登りばかりはきつく辛かった。殆んどアップダウンが無く登りのみ。よく考えると、去年、「六甲ロックガーデン」も雨で途中下山している。急こう配を登っていない。そして、この三ノ峰も、急勾配を登っていなかった。今年はやり直しの山行だったのだと初めて気が付いた。

下山も大変で、雨の中急勾配を下る。滑る滑る！さて、何人が無事、滑ることなく下山出来たでしょうか？自分も足を引っかけた転倒するし、アブに脛を噛まれて腫れるし…。苦難であったが、無事事故も無く全員が下山できた。

翌日はホテルでゆっくりの朝食をとり、8時20分頃、大野城を目指して出かける。大野市の朝市を観て大野城を登る。お城の上から昨日、登った山の方を見ると雲がかかっている。「今日も降っているよね」と、負け惜しみを言いながら降りる。

最初から最後まで、昨年と比べることになってしまったが、今回は自分の中では、色々気付かされる事があったので、参加して、とても良かったとおもっている。

皆様お疲れさまでした。そして、砂川会長はじめサポートしてくださった先輩の方々、本当に有難うございました！





## ◆◆終了山行を終えて・・・

## 西山(由)

『初めての山歩き教室』に参加して、全ての日程に参加出来たわけではありませんでしたが、目標としていた『白山（上小池～三ノ峰）』に登ることが出来ました。同月に「ロックガーデン～一軒茶屋」にトレーニングに行った際、“ここを登れたら、三ノ峰にも登れる！”と、お聞きし歩き始めたのですが、正直大変で、終了山行が不安に思っていました。

キャンプ場でテントを張ったり、夕食を作ったり、と楽しい事が多く、翌日起きるまで、山歩きの事を忘れていました。朝起きてみると、お天気が良くなく、山には雲がかかっており、2年連続の断念になるのでは・・・と不安になりました。

登り始めは、雨もなく少し地面が濡れている程度で、足並みも軽く、進んでいくことが出来ました。六本檜で休憩をしているとき、ポツポツと雨が降り始め、カッパを着ることに・・・。

その後、雨は強くなることもなく、沢山の花に応援されながら上ることが出来ました！『ささゆり』が本当に綺麗に咲き誇っていて、カメラで撮影しながら登ったので、疲れや雨など気にもなりません。次第に天候は悪くなっていき、避難小屋に近づいていくと、前の方と離れると、見失ってしまいそうな霧？雲？に包まれていました。そのような環境の中、急勾配を登り続け、「一人なら諦めていただろう・・・」

と感じることもありました。無事に、三ノ峰に到着するも景色は、真っ白・・・。雨と風に「やった～！！」と感動するよりも「頑張った！」と思う方が強かったように思います。避難小屋で昼食をとっていると、嵐のような天候に・・・。「下山できるの?!」と思うほどでしたが、いざ下山となった時には、小降りになっており「なんと恵まれているのだろう！」と感じました。しかし、雨が降った後の土は、滑る・・・。急勾配を下りるとなると、より滑る・・・。なのに、滑った先は崖・・・。行きの花を楽しみながら登ったのとは、まったく違う状況に頭の中で「行きは良い良い、帰りは怖い」が何度も浮かび、平坦な道でさえ、どうやって歩いたらいいのかわからなくなり、自分でも感じるほどの負担のかかる歩き方をしていました。帰りはしゃべることもなく、ただ自分の足下をじっと見つめながらの下山となり、多くの方と共にいるのに、まるで一人の登山のように感じてしまう寂しい下山となってしまいました。本当に残念・・・。



登山口に戻ってきたとき、全てから開放されたような気持ちになり、一緒に登った方々と喜び合った時は、「この達成感と一体感があるから、また登りたいと思うのかな・・・」と思いました。

「やってみよう！」と軽い気持ちで始めた山歩き。気が付けば色々と道具を購入し、高御位山遊会の方に色々とアドバイスを頂き、山の魅力に捕らえられたように思います！いつもは、母と一緒にトレーニングに参加していましたが、今回は諸事情により、一緒に登れなかったの

で、「いつの日か、一緒に三ノ峰に立ちたいな・・・」と思いました。

高御位山遊会の皆様、沢山の準備をしてくださり、またサポート・楽しい時間を与えてくださりありがとうございました。また一緒に登った教室生の皆さん、本当にお疲れ様でした！